

表1：『証言』にみる朝鮮人「慰安婦」の連行年齢

出典	姓名	生年	連行時の年齢	日本語翻訳
証言集1 (19人)	金学順 キム・ハクスン	1924年	17歳	『証言集(上)』
	金徳鎮(仮名) = 金順徳 キム・スンヂュ	1921年	17歳	
	李英淑 イ・ヨンスク	不明(1922年?)	17歳	
	河順女 ハ・スンニョ	1920年	20-21歳	
	呉五穆 オ・オモク	1921年	16歳	
	黄錦周 ファン・クムジュ	1922年	20歳	『証言集(上)』
	文必琪 ムン・ピルギ	1925年	18歳	『証言集(上)』
	李容洙 イ・ヨンス	1928年	16歳	
	李玉粉 イ・オップン	1926年	12歳	
	文玉珠 ムン・オクジュ	1924年	16歳	『証言集(下)』
	李順玉(仮名) イ・スノク	1921年	17歳	
	李相玉 イ・サンオク	1922年	15歳	
	李得南(仮名) イ・トクナム	1918年	22歳	
	李容女 イ・ヨンニョ	1926年	16歳	
	金台善(仮名) キム・テソン	1926年	18歳	
	朴順愛 イ・スネ	1919年	23歳	
	崔明順(仮名) チェ・ミョンスン	1926年	19歳	
	尹頭理 ユン・トゥリ	1928年	16歳	
	姜徳景 カン・ドッキョ	1929年	16歳	『証言集(上)』
証言集2 (15人)	崔イルレ	1916年	16歳	
	朴ヨニ(仮名) = 朴酉年 パク・ユニョン	1921年	18歳	『証言集(下)』
	金ブンソン	1922年	15歳	
	ペ・ジョッカ	1922年	17歳	
	呂福實 ノ・ボクシル	1922年	17歳	
	チン・ギョンペン	1923年	15歳	
	金春子 キム・チュンジャ	1923年	15歳	
	朴頭理 パク・トゥリ	1924年	17歳	『証言集(上)』
	孫パニム ソン・パニム	1924年	17歳	
	全錦花 キム・クムファ	1924年	17歳	

Q1 朝鮮人「慰安婦」は、なぜ少女が多かったのか？

出典	姓名	生年	連行時の年齢	日本語翻訳
	金福童 キム・ポットン	1926年	16歳	『証言集(下)』
	姜舞子(仮名) カン・ムジャ	1928年	14歳	
	崔ジョンレ	1928年	14歳	
	朴スニ(仮名)	1930年	14-15歳頃	
	金ウンジン	1932年	12-13歳頃	
証言集3 (14人)	フン・ハルモニ	1924年 または25年	16歳頃?	
	金ソラン(仮名)	1926年	18歳	『証言集(下)』
	金君子 キム・クムジャ	1926年	17歳	『証言集(下)』
	金オクジュ	1923年	17歳	
	金ウンレ	1926年	17歳	
	沈達蓮 シム・タリョン	1927年	12-13歳頃	『証言集(下)』
	チョ・スンドク	1921年	19歳	
	チェ・ファソン(仮名)	1927年 (戸籍上1930年)	15歳(満14歳)	
	ファン・スニ	1922年	12歳	
	キム・クッスン(仮名)	1914年	本人23歳 (聞き取り者27、 28歳と推測)	
	チョ・ナムレ	1921年	16歳	
	ハ・ヨンイ(仮名)	1922年	15歳	
	シン・ヒョンスン	1924年	18歳	
キム・ユガム(仮名)	1930年	14-15歳		
証言集4 (9人)	金ファソン	1926年	16歳	
	金チャンヨン(仮名)	1925年	16歳	
	ハン・オクソン	1919年	19歳	
	金ヨンジャ	1923年	16歳	
	崔カプスン	1919年	15歳	
	チョン・ユンホン	1920年	22歳	
	尹スンマン	1929年	13歳	
	金ポットン	1915年	19歳	
安ポプスン	1925年	17歳		

出典	姓名	生年	連行時の年齢	日本語翻訳
証言集5 (9人)	申ギョンラン	1921年	17歳	
	ソク・ボクスン (仮名)	1921年	18歳	
	金ジョンスン	1922年	18歳	
	李クンスン	1927年	17歳	
	尹エジャ	1931年	13歳	
	李フナム (仮名)	1925年	17、8歳頃	
	河ボギャン	1926年	16歳	
	梁ジョンスン	1925年	16歳	
	李ヤングン	1922年	20歳	
証言集6 (12人)	コン・ジョムヨブ	1920年	16歳	
	金ファジャ	1926年	17歳	
	チョン・ソウン	1924年	18歳	
	姜日出 カン・イルチュル	1928年	16歳	『証言集(下)』
	石スニ	1928年	14歳	
	李玉善 イ・オクソン	1927年	16歳	『証言集(上)』
	イム・チョンジャ	1922年	17歳	
	ノ・チョンジャ	1920年	19歳頃	
	チャン・チョムドル	1923年	16歳	
	金ボンイ (仮名)	1927年	16歳	
	金スナク	1928年	16歳	
	吉元玉 キル・ウォノク	1928年	13歳	『証言集(下)』
78人		うち未成年 73人		

〈注〉1) 出典は第1集＝証言集1などとした。証言集(上)(下)とは日本語翻訳書を示す。

2) 網掛け部分は成人を示す。なお、当時の国際法では20歳は未成年であった。

3) 名前は漢字と読み方を併記したものが、そうでないものもある。

〈出典〉韓国挺身隊問題対策協議会・挺身隊研究会(所)編『証言―強制連行された朝鮮人軍慰安婦たち』は、タイトル・著者名・出版社に多少の変動があるが、第1集～第6集まで出版されている(1993年・97年・99年＝ハヌル、2000年・01年・04年＝プルビツ)。表1は、この6つの証言集から筆者が作成したものである。

日本語版は、第1集の翻訳が従軍慰安婦問題ウリヨソンネットワーク訳『証言―強制連行された朝鮮人軍慰安婦たち』(明石書店、1993年)で出版され、また、韓国の証言に北朝鮮および日本在住の被害者証言を併せて翻訳・編集されたものに、アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」(wam)編、西野瑠美子・金 富子責任編集『証言 未来への記憶 アジア「慰安婦」証言集―南・北・在日コリア編 上・下巻』(明石書店、上巻＝2006年、下巻＝2010年)がある。

Q1 朝鮮人「慰安婦」は、なぜ少女が多かったのか？